

第3章

土木未来プロジェクト

- 1 豪雨災害対策
- 2 南海トラフ巨大地震対策
- 3 「九州の東の玄関口」の強化
- 4 大分都市圏交通円滑化対策
- 5 道路空間の再生(リボーン)
- 6 昭和電工武道スポーツセンターの完成
- 7 社会資本の集中的メンテナンス
- 8 建設産業の魅力発信

1 豪雨災害対策

●玉来ダムによる治水効果の発現

平成31年3月に定礎式を執り行い、現在は、本体コンクリート打設を行っております。併せて、放流設備や止水対策等の工事を進めています。

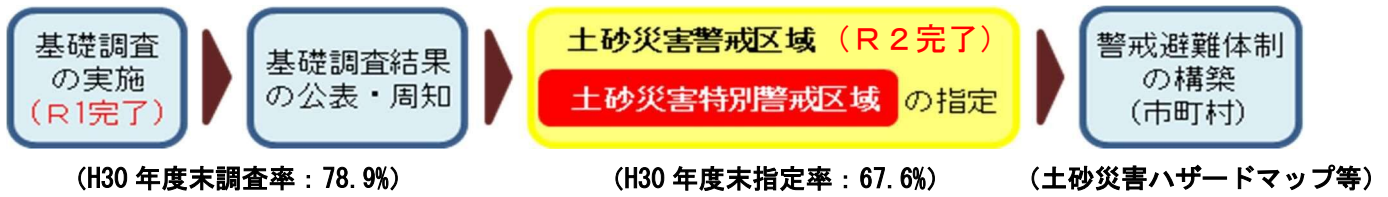


玉来ダム諸元
 形式：重力式コンクリートダム（流水型）
 堤高：52.0m 堤体積：128,250m³
 堤頂長：145.0m 総貯水容量：409万m³



●土砂災害警戒区域等の指定を加速し、警戒避難体制を早期構築

H30 調査数 3,925 箇所



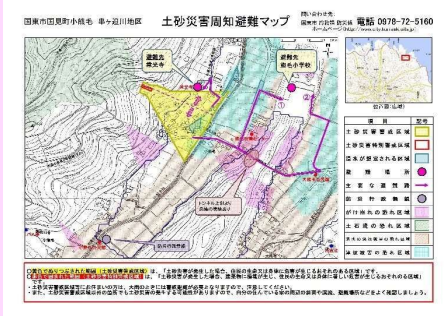
令和元年度の基礎調査完了に向け、平成30年度は3,925箇所で開催を実施しました。また、土砂災害警戒区域にて市町村が行う警戒避難体制の構築を支援するため、土砂災害ハザードマップの作成経費を助成する制度を新たに創設し、5,318区域でマップを作成しました。

<警戒避難体制の構築に向けた取組>
 ○ハザードマップ作成支援ソフトの操作研修会開催
 ○ハザードマップ作成経費の助成制度を新たに創設

ハザードマップ作成数が
前年度の約2.5倍に増加
 (H29：3,482区域→H30：8,800区域)



作成支援ソフト操作研修会



土砂災害ハザードマップ

2 南海トラフ巨大地震対策

●護岸の耐震化や強化による大分臨海部コンビナートの強靱化

切迫する南海トラフ巨大地震・津波や台風による高潮に対し、大分臨海部への甚大な被害を最小化し、地域の安全・安心を守る必要があります。そのため、老朽化が著しい大分臨海部の海岸保全施設の防護機能強化を早急に行うこととなりました。

国土交通省の「大分港海岸直轄海岸保全施設整備事業」として平成29年度から地盤改良や鋼矢板等の護岸改良工事を進めています。

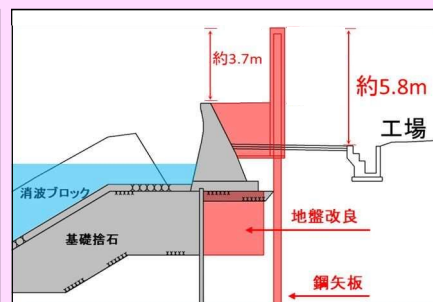
今後も、国・県・市が協力のう え、関係企業や住民と調整をしながら、事業を進めます。



大分港海岸直轄海岸保全施設整備事業」事業箇所図



整備イメージ



整備断面図

●最優先啓開ルート of 橋梁耐震化・法面崩壊対策

・ 公的機関・災害拠点病院等の広域的な防災拠点や救命活動に係る重要拠点を結ぶ「最優先啓開ルート」において、平成30年度までに道路法面对策を、平成31年度までに橋梁の耐震化を完了することを目標としています。平成30年度は国道502号外、12箇所の道路法面对策工事と、大分大分港線弁天大橋外、5橋の橋梁の耐震化工事を実施しました。

道路法面对策 国道502号（豊後大野市）



《対策前》



《対策後》

橋梁耐震化工事



《イメージ》

●道路啓開の確実な取り組み

- ・ 大地震等により救命・救援活動を支える緊急輸送体制を早期に確保するための「道路啓開」を行うにあたり、「だれが、どこで、いつまでに、どのようにして」といった活動手順を具体的に定めた地区別実施計画を策定し、道路啓開の確実な実施に向けた取組を進めています。
- ・ 平成30年度は、豊後大野、竹田、玖珠、日田地区の計画を策定しました。

3 「九州の東の玄関口」の強化

大分県は、九州と本州・四国との間を結ぶフェリーの約8割が発着しており、海路と九州各県を循環する陸路（高速道路）の結節点となることから、人の流れ、物の流れの拠点として大きな可能性を有しています。平成28年度に策定した「九州の東の玄関口としての拠点化戦略」に基づき、観光や産業振興に向けた取組を推進しています。

●拠点化に向けた港湾の再編

・別府港石垣地区

港湾施設やにぎわい施設の配置検討により、港湾計画の変更及び別府港再編計画の策定を行いました。今後、人の流れの拠点に向けた施設整備を進めます。



別府港(石垣地区) 埠頭再編のイメージ

・大分港大在地区

RORO船のさらなる増便に対応するため、岸壁や埠頭用地等の移転・集約の検討を進めています。今後、物の流れの拠点としての港湾施設の機能強化を図ります。



大分港(大在地区) 埠頭再編のイメージ

●地域高規格道路の早期整備

・東九州自動車道・宇佐別府道路・大分空港道路

大分空港道路については、日出IC～安岐IC間の一部区間で実施していた4車線区間の延伸工事が、令和元年7月に完了しました。

・中九州横断道路

朝地IC～竹田IC間が平成31年1月に開通しました。平成31年4月に新規事業化した竹田～阿蘇間の早期開通を目指し、引き続き国へ要望活動を行います。

・中津日田道路

三光本耶馬溪道路（中津IC～田口IC間）が平成31年3月に開通しました。

現在約24kmの区間（三光本耶馬溪道路、耶馬溪道路、日田山国道路）で整備を推進しています。

H31. 1月に開通した中九州横断道路
(朝地IC～竹田IC間)

令和2年度の開通に向け整備が進む耶馬溪道路

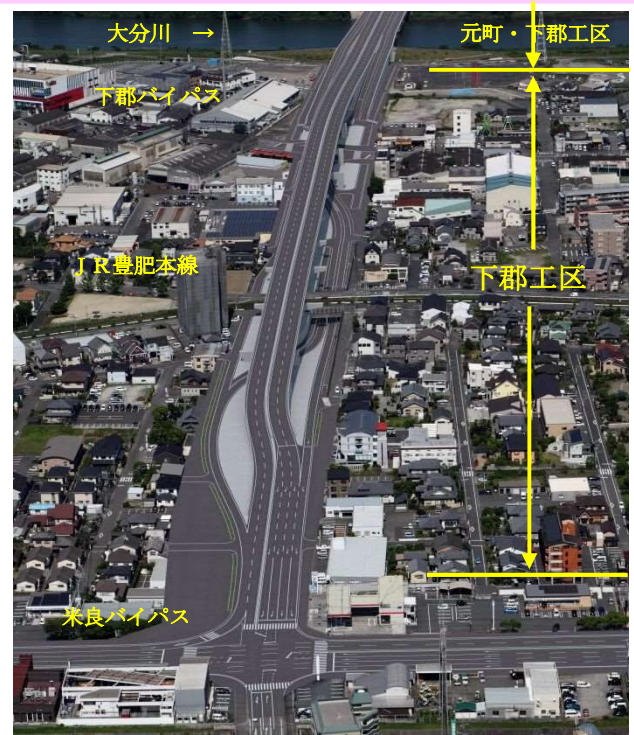
4 大分都市圏交通円滑化対策

●(都)庄の原佐野線

本路線は、大分市内中心部での交通渋滞の緩和や高速道路へのアクセス強化を目的とし、整備を進めているところです。

宗麟大橋を含む「元町・下郡工区」は、平成30年1月14日に開通しました。

「元町・下郡工区」に続く下郡バイパスから米良バイパス間の「下郡工区」は、平成29年度から事業に着手し、平成30年度は測量、設計等を実施しました。



下郡工区 整備イメージ（暫定形）

●国道197号（鶴崎拡幅）

大分市の志村～乙津間は自動車交通量が多く、大野川を渡る橋梁部などでも2車線しかなく、慢性的な渋滞が発生しています。

このため、平成27年度から4車線化の事業に着手しました。まずは、乙津工区の整備を優先し、整備を進めていきます。

平成30年度は、測量、設計等を実施しました。



大分市東部のボトルネック

●国道442号（宗方拡幅）

大分市の宗方・植田地区では、交通量が多く、沿線には商業施設が多く立地していますが、歩道が狭く途切れた区間もあり、交通安全対策が課題となっています。

このため、平成26年度から一部4車線化と歩道設置の事業に着手しました。平成30年度は、用地買収を進めました。



まちなかの幹線道路で交通量が多く歩道整備が不十分

5 道路空間の再生（リボーン）

●道路空間の再生（リボーン）とは

道路の拡幅のほか、既存道路幅を利用し交通実態に合わせた幅員の再配分や無電柱化、歩道舗装の再整備、街路樹の見直し、照明のデザインの統一、バリアフリー化などを実施し、都市景観を踏まえた幹線道路の再整備を行っています。

国道197号（昭和通り）

「大分の街並みを引き立て、落ち着き・品格のある昭和通り」の実現を目指して、リボーン197協議会から平成28年11月に10項目の提言が提出されました。この提言に基づき、平成29年度より、「交通安全事業 国道197号（昭和通り工区）」に着手しています。

平成30年度は、昭和通り交差点から城址公園までの工事と舞鶴歩道橋の撤去工事を実施しました。



国道500号（別府市鉄輪地区）

国道500号（別府市鉄輪地区）において、歩道の拡幅と無電柱化に向け、事業を進めています。平成30年度は、構造物の詳細設計や用地測量などを実施しました。



景観を損なう電線や電柱



整備後のイメージ

6 昭和電工武道スポーツセンターの完成

平成31年4月に多目的競技場、武道場等を有する、県内屋内スポーツの拠点となる地上3階、地下1階の昭和電工武道スポーツセンターが完成しました。全国規模の大会誘致によるスポーツ振興に寄与するとともに、大分スポーツ公園の広域防災拠点としての機能強化が図られます。

遠景



鳥瞰



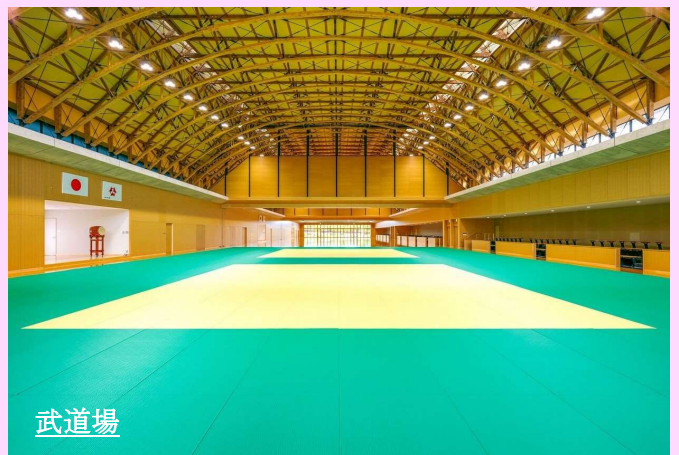
正面入口



多目的競技場



武道場



エントランス



トレーニング室



主要施設

- ・多目的競技場 (約 3,570 m²)
- ・武道場 (約 2,410 m²)
- ・トレーニング室 (約 500 m²)
※キッズルーム、救護室併設
- ・大会議室 (約 100 m²)
- ・小会議室 (約 40 m² × 2 室)

7 社会資本の集中的メンテナンス

●早期に対策が必要な社会資本の補修・補強対策を推進

本県では、高度経済成長期以降に集中して整備された社会資本が多く、今後、老朽化する施設が急増することが懸念されます。

平成26年までに完了した各施設の詳細点検の結果、早期対策が必要な施設が多数あることが判明したことから、その対策を着実に行う必要があります。

その後は、損傷が深刻化する前の軽微な状態のうちに予防保全型の維持管理により、将来の維持管理コストの平準化を図り、適切な維持管理に努めていきます。

●早期対策が必要な施設の対策率

1 巡目定期点検の結果から健全性の診断を行い、早期対策が必要な橋梁は815橋となっており、平成30年度に県道別府山香線御門橋など95橋の対策を行い、これまでに橋梁809橋の対策が完了しています。

トンネルは、橋梁と同様に早期対策が必要なトンネルは200本となっており、平成30年度に国道326号鶯谷トンネルなど44本の対策を行い、これまでに200本の対策が完了しました。

橋梁、トンネルの早期対策が必要な施設の補修対策は、平成30年度までに完了することを目標としており、平成30年度までの対策率は、橋梁99.3%、トンネル100.0%となっています。橋梁の残りの6橋については令和元年度中の完成に向けて、目標達成に向けて補修対策を引き続き推進しています。

橋梁・トンネルの損傷・補修事例

橋梁 県道別府山香線 御門橋（別府市）



トンネル 国道326号 鶯谷トンネル（豊後大野市）



8 建設産業の魅力発信

●地域の安心・安全を支える建設産業のイメージアップ

建設産業は、地域の安心・安全を支え、快適な社会を構築するためには欠かせない重要な産業ですが、近年は若年入職者の減少が著しいことから、建設産業の魅力を伝えるイメージアップの取り組みを進めています。

おおいた建設人材共育ネットワーク



産業・教育・行政がともに手を携え、次代を担う建設人材を確保・育成するため、「おおいた建設人材共育ネットワーク」を平成 28 年 11 月に立ち上げました。
建設産業PR動画の制作・Web 配信やセミナー、研修会の開催、「けんせつ小町座談会」などの取り組みを通して、建設産業の魅力発信を行っています。

高校生向け建設現場体験学習会



産学官の連携の取組の 1 つとして、県内の土木・建築を学ぶ高校生を対象に建設現場体験学習会を開催しました。
民間宿泊施設の建築現場や玉来ダムの工事現場を見学しました。(県内で 5 校が参加)

親子と土木のふれあい見学会



日頃近くで見られない土木工事をもっと身近に感じてもらうため、親子を対象とした「親子と土木のふれあい見学会」を開催しました。
H30. 11. 17 (土) に、大分スポーツ公園内で土木を体験するイベントや建設中の武道スポーツセンターの現場見学を実施、県内から親子 339 名が参加しました。